

新基地反対継ぐ

玉城県政1年

玉城デニー知事の初当選から30日で1年を迎えた。昨年の知事選で玉城知事は「新時代沖縄」「誇りある豊かさ」「沖縄らしい優しい社会の構築」を

掲げた。10月4日で玉城県政の発足からも1年となる。米軍普天間飛行場移設に伴う名護市辺野古の新基地建設をはじめ、地域振興や子育て支援、環境保全、文化継承など多岐にわたる県政の課題に取り組んできた。主要公約の進捗を点検し、この1年を振り返る。

問題意識、イベントで喚起

基地

昨年の知事選で玉城デニー知事は名護市辺野古の新

基地建設阻止を前面に訴えて当選を果たした。就任後は政府に対話を通じて工事中止を求めてきたが、政府は移設推進の姿勢を崩さず、作業を強行している。県は二つの訴訟を提起し、府と県との対立は法廷闘争

に入った。

玉城知事は全国世論を味方に付けようと、自身による県外での講演「全国キャラバン」を展開。メディアを通じて情報発信に力を入れ、野外音楽催事「フジロックフェスティバル」にも

出演して話題を呼んだ。10月14、20日、米国を訪問して政府関係者や議員、有識者と面談し、辺野古新基地建設反対を訴える。

辺野古新基地を除いては政府と連携して基地再編計画を推進したい考えだが、那覇港湾施設(那覇軍港)の浦添市移設などを巡って辺野古との立場の違いを追及されている。



トークキャラバンで登壇する玉城デニー知事(左端)ら。8月19日夜、名古屋市の公会堂